



幼稚園の女の子もちょっと気になる子ども

「何となく落ち着きがないように感じる、大人とはうまく関係がもてるのに同年代の子どもとはうまくいかないことが多い、お話はよくできるけどやりとりがうまくいかないことがある…」幼稚園や保育園、学校などの集団の中で、このような「ちょっと気になる子ども」がいます。

このような子どもたちの中には、「自分は集中したいと思っているけどつい注意がそれてしまう」「友だちと仲よくしたい、悪気はないのに、ついトラブルになってしまう」など、困りを感じている子どもも少なくありません。その原因の一つに、本人の努力だけではなかなか克服できない発達上の課題がありますが、その課題が目に見えにくいいため、時には本人のわがままや親の育て方の問題といった誤解を受けることもあります。

この小冊子は、このような子どもたちの困りを解消し、集団の中ですこやかに育つために必要な発達上の課題への理解と、ちょっとがんばればできそうな支援の工夫についてまとめています。保育や学校教育など、子どもの教育に携わる方々にお読みいただき、明日からの子どもたちへの支援のヒントにいただければ幸いです。

この冊子の内容



「ちょっと気になる子どもの理解」編

今まで知らなかった子どもの困り感。適切な支援は、発達上の課題に対する正しい理解から始まります。

「ちょっとがんばればできそうな支援 10のポイント」編

決して特別な方法ではありません。もうすでに取り組んでいることもたくさんあるかもしれない支援のポイント集。

「もっとくわしく知りたい、気になる子どものことを相談したい」編

久留米市にはたくさんの相談のための窓口があります。一人で悩まず、まず相談されてみてはいかがでしょうか。

「ちょっと気になる子どもの理解」編

「発達」とひとことに言っても、その中にはいろいろな要素が入っています。じっとして動かなかった赤ちゃんが、首が座り、寝返り、はいはいをして、いつか立ち上がり歩き始めます。同時に、赤ちゃんはお母さんを意識するようになって、お母さんを見て、ほほ笑みかけ、声を出し、言葉を聞き覚えていきます。おもちゃに関心を持って、触って遊ぶようになり、誰かと一緒に遊ぶ楽しさを知っていきます。これらは全て脳の発達と関係しています。

ただ、脳のバランスが悪かったり、脳の回線がうまく繋がっていないとき、当たり前と思うことが上手に出来ないことがあります。自分の力で学習したり、間違ったことを修正するのが苦手だったりする子ども達があります。つまり、発達にデコボコがあったり、スピードがゆっくりで時間がかかったりするのです（発達上の課題）。こういう子ども達は一般的なしつけだとうまくいかないばかりか、「未学習」や「誤学習」をしてしまうこととなります。こういう場合は、その子どものことを十分に理解して関わらなければなりません。そうすることで、必ず子どもは伸びます。そうして子どもが成長することで、子育て（保育・教育）に自信が持て、成長の喜びを味わえることとなります。



では、実際にはどのような「発達上の課題」があるのでしょうか。ここでは、よく見られる2つの課題について取り上げてみます。

1. 多動性、注意散漫、衝動性などの課題をもつ子ども達

具体的に子ども達が持つ困り感は、どのようなものでしょうか？

- ① 遊び、または勉強の中で、注意を持続させることが難しい
- ② 毎日決まった活動なのに忘れてしまう
- ③ 外からの刺激で、簡単に注意がそれてしまう
- ④ 勉強中、不注意なミスが多い
- ⑤ 順序たてて活動をすることが苦手
- ⑥ 物をよく失くしてしまう
- ⑦ 椅子に座っていても、モジモジ動いてしまう
- ⑧ 教室などで席についていけない
- ⑨ 質問が終わる前に答えてしまう
- ⑩ 順番が守れない

ただしこれらの症状は、“あ、私もある！”と思うようなものも多いと思います。小さい頃から当てはまり、家庭でも園（学校）でも…と2ヶ所以上で同じ様子が見られ、ずっと続いているときには、発達上の課題と捉えることができます。つまり、子ども達はわざと問題行動を起こしているのではなく、“わかっているけど止められない”、本人はとても困っているということです。

こうして子どもを正しく理解することで、子どもの持つ長所を十分に伸ばしてあげることが出来ます。例えば注意の持続が難しい…つまりは興味のないものに注意を向けることができないということですが、逆に言えば興味のあるものにはすごい集中力を持っていることであり、これを伸ばしてあげればよいということになります。このように正しく子どもを理解することは診断を受けることでもありますが、決して子どもにレッテルを貼ることはありません。より良い支援を受けることは、子どもの成長につながるのです。



また、わかっているはずなのに…と子どもをずっと叱ってしまいがちですが、マイナス評価の積み重ねはかえって逆効果です。マイナス評価を受けることで抑うつ、孤立感、劣等感といった二次的な情緒障害をひき起こすことが言われています。子どもの困り感に寄り添い、褒めて育てることが大切です。（実際の方法は、支援編をご参照ください。）

2. コミュニケーションがとりにくい課題を持つ子ども達

コミュニケーションがとりにくいとは具体的にはどのようなことでしょうか？

乳幼児期には…

- ① 視線が合いにくい
- ② 抱っこを嫌がる
- ③ 親の後追いをしない
- ④ 名前を呼んでも振り向かない
- ⑤ 指さしをあまりしない

幼児期・学童期には…

- ① 言葉が遅い
- ② 親から離れても平気
- ③ 遊びや、物事にこだわりがある
- ④ 偏食が激しい
- ⑤ 集団行動が苦手
- ⑥ 音や光に過敏、特定の知覚に過敏、温度調節が苦手
- ⑦ ごっこ遊び、見立て遊びが苦手

言葉に遅れがなくても…

- ① 会話は出来るけど、一方的だったり、気持ちがこもってなかったりする
- ② その場の雰囲気を読みにくい
- ③ 集団から孤立しやすい
- ④ 不器用さがあったり、姿勢が崩れやすい
- ⑤ 知的レベルは高いが、冗談や比喩が理解できない。言葉どおりに受け取ってしまう

コミュニケーションに課題があるというのと、とても難しいことのように感じるかも知れません。でも、例えば海外に旅行に行ったときのことを想像してみてください。言葉が通じない世界で、ジェスチャーも使えなかったら、どんなに心細い思いをするでしょう。コミュニケーションが苦手な子ども達は、そんなとても不安な世界にいるのです。

また、コミュニケーションが苦手な子どもたちの中には、感覚の過敏さやこだわりを持つこともあります。感覚の過敏さとは、例えば温度調節が苦手な場合、少し暑いなど思うぐらいの温度の上昇が、真夏のエアコンを切った車内のような暑さに感じたり、雷の音がこの世の終わりの地響きのように聞こえているかも知れないのです。こだわりとは、物やマークに固執したり、自分なりのルールをとおそうとしたりすることですが、それらを変動する場合、非常に抵抗を示すことがあります。

私達はどうしても子どもの行動の問題点ばかり目を向けてしまいがちです。でもその問題と思う行動には、実は理由があることが多いのです。叱ったり、マイナスの言葉は二次的な抑うつ状態を引き起こします。その理由を正しく理解し、共感し、褒めて育てた方がプラス志向になり、子どもたちも確実に成長していきます。

医療機関での診断を勧められることもありますが、それは子どもにとっての正しい支援を行う第一歩だということを忘れないでください。

では、次頁からの「ちょっとがんばればできそうな支援 10のポイント」編で、今すぐにでもできそうなことを始めてみませんか！



「ちょっとがんばればできそうな支援 10のポイント」編

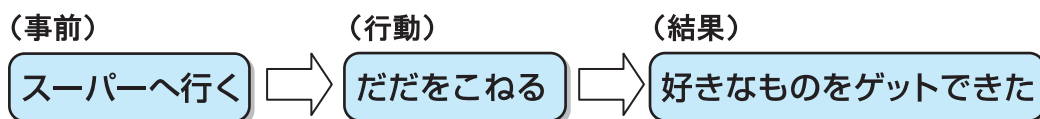
小さい子どもたちは言葉で十分に要求や気持ちを伝えることができずに、泣いたり怒ったり、かんしゃくを起こしたりしてしまいがちです。目に見える不適切な行動の背景には、必ず子どもなりの理由があります。子どもたちへの支援の基本は、一人ひとりの子どもが、どんなことで困っているのかをよく観察して手助けをすることです。

ここでは、子どもも支援する側も楽になるための対処の仕方をいくつかご紹介します。何も特別なことではありません。理屈ではなく実践の場で、体験を通して適切な行動を身につけることができるように支援していきましょう。

ポイント1 困った行動をやめさせるには

困った行動を
記録する

困った行動が続く場合にいくつかの理由が考えられると思います。まず、どんな時にどのような行動が起こるのか書き出してみましょう。



この場合「好きなものをゲットできた」ことがご褒美になり、「だだをこねる」という行動が強化されることになります。こんな場合は、要求を受け入れてもらえないとますます行動が激しくなっていきます。

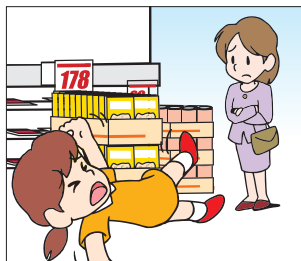
静かな口調
譲らない

我慢できたら
すぐに褒める

困った行動を
無視

そこで、スーパーに行く前に約束をして、我慢できたらしっかり褒めるようにします。どんなに大きな声で叱っても最終的に譲ってしまえば意味がありません。静かな口調で決めたことは譲らないことが大切です。気持ちを切り替えて、約束を守れたらすぐにその場で褒めるようにします。

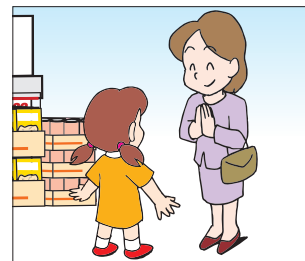
危険がないときは、困った行動を無視し関わらないのも一つの方法です。(子どもを無視するのではなく、子どもの困った行動に関わりすぎないことが大切です。そして、少しでも子どもが立ち直ろうとした瞬間を見逃さずタイムリーに褒めます。)



だだをこねる



行動を無視する



適切な行動を褒める

ポイント2

音に過敏だったり、さわられるといやがったりする子への対応は

音への対応

赤ちゃんの泣き声や、小さい子の甲高い声、雨の音や風の音、運動会のピストルの音に敏感に反応する子がいます。このような子どもたちは、刺激に対して私たちが聞いているのとは聞こえ方が違うのではないかとされています。

そんな時は、耳栓を使ったり、静かな場所（少し薄暗くて狭い場所が落ち着くことができます。）へ一時避難したりするとよいでしょう。小さい頃は苦手だったのに成長とともに気にならなくなることもあります。無理に慣れさせようとすることは禁物です。

触れられることに対する対応

突然頭をなでられたり、さわられるのが苦手だったりする子や、肌触りに敏感な子がいます。

子どもに接触するときには、視野に入る場所から声をかけて近づき、むやみにさわらないようにすることが大切です。握手をしたり、ハイタッチをしたりするなど短時間で、抵抗の少ないことから始めましょう。

ポイント3

言葉での指示がなかなか通りにくい子への対応は

指示の出し方

短い言葉で
簡潔に
具体的に

「姿勢を正しくしましょう。」「きちんとかたづけましょう。」「後で聞いてあげる」など日頃よく使っていますが、「正しく」「きちんと」「後で」などの曖昧な言葉は、子どもにとってわかりにくい場合があります。また、はなし言葉は消えてしまうので覚えておくことが難しい子もいます。

そこで、短い言葉で具体的な指示をすることが大切です。例えば、「手はひざ、背中ピン、足は床につけます。」とか「カバンはロッカーにいれます。」「時計の針がらになったら終わります。」など「何を、いつ、どうするか」を明確に伝えましょう。








ポイント4 生活習慣がなかなか身につかない子への対応は

してみせる
絵や図で手順表を示す
スモールステップ(小さい目標)

日常生活には、朝起きてからの身支度やお風呂、掃除など、様々な手順があります。それを覚えてスムーズに行うことは容易ではありません。日常の生活習慣は複雑な動作が絡み合っていて、言葉かけだけでは理解することやそれを覚えるのに時間がかかることがあります。

何をどのようにしたらよいのか分からなくても、実際にやって見せたり図や絵で手順や方法を示したりすると分かりやすくなります。行動を順序よく覚えることが難しいお子さんには、一度にたくさんの要求をしてもできないことがありますので、スモールステップで取り組むように心がけましょう。

例えば、歯磨きも「歯ブラシをとる。」「歯ブラシに歯磨き粉をつける。」「歯を磨く。」などその子に応じた分かりやすい方法を絵で示すと、記憶に残り身につけてくる場合があります。時間を意識させる場合は、絵や図に時計の印を入れて意識づけたり、砂時計やキッチンタイマー、タイムタイマーなどを利用したりしてはいかがでしょうか。

- あさのじゅんび
1. はみがき 
 2. トイレ 
 3. きがえ 
 4. リュックサック 
 5. ぼうし 

ポイント5 初めての場所や急な予定の変更が苦手な子への対応は

スケジュール
写真の利用

誰だって、初めての場所や予定が急に変わると不安を感じるでしょう。でも、あらかじめ「いつ、どんなところへ、いつまでいるのか、その後どうするのか」など、スケジュールが分かっていると安心します。自由な時間があるとどうしてよいか戸惑う子どもの場合も、1日のスケジュールを準備してやると活動しやすくなります。

さらに、その場所がどんな所かあらかじめ分かれば写真やインターネットの画像を見せるとより分かりやすくなります。

- きょうのよてい
-  おきる 
 -  あさごはん 
 -  ようちえん 
 -  いえにかえる 
 -  スイミング 

変更の伝え方

また、予定が変更になるかもしれない場合は、「雨が降ったら・・・になるかもしれません。」というように事前に伝えておくといよいでしょう。急な変更の場合も、速やかに知らせることが大事です。

ポイント6**遊びのルールを守ることができずに、友達とトラブルになってしまう時には****分類して対応**

同じことで注意をしても改善が難しい場合、次の3つに分類することで対応の仕方が変わってきます。「わからないからできない」のか「わかっているけどやめられない」のか「わざとやっている」のかです。

分からない

「わからないからできない」場合は、ルールが分かるように手だてを取ることが必要です。ルールが難しすぎれば、簡単で分かりやすいルールに作り替えたり、絵や図でルールを分かりやすくしたりして、スモールステップで工夫してみられるとよいと思います。大人が介入して子ども同士がうまく遊び、成功体験を積み重ねることで、少しずつルールが身につけて楽しく遊ぶことができるようになります。

やめられない

「わかっているけどやめられない」場合は、現在ルール違反が何回あるか考えて、子どもとサッカーのイエローカードやレッドカードなどの約束を決めて、ルールを守ることを意識づけることが必要です。

わざと

「わざとやっている」場合には、遊びたいけれど何と言って関わればよいのか分からない、大人にかまって欲しいなどの場合が考えられます。関わり言葉が分からない場合は「～ちゃん、一緒に遊ぼう。」「入れて」というような関わり言葉を教えることが必要です。いずれにしてもその子の状況をよく観察して対応することが大事です。

ポイント7**おもちゃや道具などをかたづけることが苦手な子への対応は****位置を決める**

持ち物の整理整頓は、一生必要なスキルですから、丁寧に教える必要があります。まず、何をどこにしまうか定位置が決まっていますか？

絵やマークで
目印をつける



おもちゃは段ボールやプラスチックの箱などに絵やマークを見えるところに書き、しまうものが分かるようにしておきましょう。また、自分の衣服も目印をつけ、少しずつ自分でしまうようにしていくといいですね。最初はかごにしまう。それができるようになったら、徐々にタンスにしまうこともできるようにしていきましょう。初めは大人と一緒に、徐々に一人でできるように手を引き、できたらしっかり褒めましょう。



ポイント8

1番にならないと気がすまず、ゲームに負けるとかんしゃくを起こしてしまう子への対応

感情のコン
トロール



感情をコントロールして、穏やかに振る舞うことは大人でも難しいことです。かんしゃくを起こして興奮している時に声をかけても、余計に感情をいらだたせるだけです。興奮が冷めてから様子を見て、「悔しかったんだね。」「1番になりたかったんだね。」など、子どもの気持ちを言葉で表現してあげるとよいでしょう。子どもによっては、そのことには触れず、別の話に切り替えてあげることで、気持ちのスイッチを切り替えることができることもあります。

私たちは、自分の気持ちを切り替えたり、物事を考えたりする時に「内言語」と言って音声には出さないけれども心の中で言葉を使っています。

気持ちを
言葉で表現

かんしゃくを起こしそうな時に「まあ、いいか」とか、「しょうがないなあ。」などの言葉を声に出して、言葉で切り替える方法を教えることも効果的です。「ゲームは時の運。勝つときもあれば負ける時もあります。負けても最後までやります。」と約束して取り組むこともいいでしょう。

ポイント9

叱られたり、嫌なことがあったりすると暴力的になる子どもへの対応は

自尊感情

じっとすることが苦手で、考えるより行動してしまう子どもたちは、ちょっとした言葉で反抗的な振る舞いをする場合があります。小さい頃から叱られることが多く、「自分ってなかなかいいぞ」とか、「すてきだな」と自分のことを思う自尊感情が低下していることが考えられます。

成功体験

褒め上手に

そこで、行動的なよい面を活かして役割を持たせたり、「できた。」「分かった。」「褒められた。」という楽しい成功体験をふやしたりして、自信を持たせるようにしましょう。子育ての基本は褒めることです。子どもの悪い面ばかりに注目せず、「注意散漫な子」は「よく気がつく子」だという具合に考え方を改めてみましょう。子どものよさを言葉だけではなく、握手、ハイタッチ、笑顔など、子どもに応じて褒め上手になることも大切です。

ポイント10

食事の時にうろうろしたり、テレビを見たりして時間がかかってしまう子や好き嫌いも多い子への対応は

活動の場を区切る

家や保育園、幼稚園には様々な活動があります。「遊び」「食事」「お絵かき」「リラックスの場所」など活動によって場所を区切るとそこで何をするかが子どもに分かりやすくなると思います。

時間を区切る

また、子どもたちにとって2つのことを同時にすることは難しいので、食事中、テレビは消すようにしましょう。テレビやおもちゃなど子どもが気になるものには落ち着いた色の布をかぶせるとよいでしょう。だらだら食べるのではなく時間を区切ることも必要でしょう。



無理強いしない

調理の工夫で少量から

好き嫌いは小学校になると給食が始まりますし、健康の保持のためにも改善したいことです。味覚や舌に触れる感触にも過敏さがあるので無理強い禁物です。料理の仕方や形が変わると食べる場合もありますし、自分で調理の手伝いをしたら食べたというようなこともあります。調理の仕方を工夫して少量ずつ食のレパートリーを豊かにして、まずは楽しく食べることから始めましょう。

「言ってみせて、させてみて、褒めてやらねば人は育たず。」と、という言葉があります。小さい子ほど褒められると嬉しくなって、成功体験を積むことで自信がつき、自尊心も高まりさまざまなことにチャレンジしようとする。

この対応編は、困っている子どもの状況のとらえ方と対処についてわずかなアイデアを提供したに過ぎません。一人で悩まず周りの方と相談しながら、その子に応じて実践の場で活かしていただければ幸いです。

「もっとくわしく知りたい、気になる子どものことを相談したい」編

気になることがあればまずご相談を！
久留米市の相談窓口

久留米市幼児教育研究所

(久留米市荘島町11-1)

TEL 0942-35-3812

FAX 0942-35-3886

- 電話相談 月～金曜日 9:30～17:00

就学前の乳幼児の方を対象に相談員、臨床心理士、医師による発達についての相談をお受けしています。電話相談後、必要に応じて療育、訓練をご案内しています。

久留米市 子ども未来部

こども子育てサポートセンター

(久留米市城南町15-3市役所16階)

TEL 0942-30-9731

FAX 0942-30-9718

- 気になるお子さん相談 (水曜日 月4回程度)
- ことばの相談 (第3月曜日 月1回)
いずれも13:15～17:00

就学前の乳幼児の方を対象に小児科医師、臨床心理士、言語聴覚士による相談をお受けしています。また、保護者のための育児支援教室を開催しています。

福岡県立久留米聴覚特別支援学校

(久留米市高良内町2935)

TEL 0942-44-2304

FAX 0942-45-0139

- きこえとことばの教育相談
- 乳幼児教育相談(0歳から受付)

聞こえやことばに関する相談、お子さんとのコミュニケーションのとり方などの相談をお受けしています。

福岡県立田主丸特別支援学校

(久留米市田主丸町石垣1190-1)

TEL 0943-73-1537

FAX 0942-72-4341

- 教育相談 電話相談:月～金 13:00～17:00
来校相談:月～金 13:00～17:00

福岡県内に居住されている乳幼児、小、中、高等学校等の児童生徒、保護者、教育関係者を対象に子どもの発達や、家庭や学校での関わり方と対応についての相談をお受けしています。

久留米市教育委員会

(久留米市城南町15-3 市役所17階)

TEL 0942-30-9216

FAX 0942-30-9719

- 子ども発達相談教室 (木曜日年間40回程度)
13:00～17:00

(久留米市南1丁目2番1号 久留米特別支援学校内)

医療・療育に繋がっていない小学生の方を対象に小児科医師、臨床心理士、教諭による相談をお受けしています。

- 通級指導教室

就学後の方を対象に相談をお受けします。小学校入学にあたり、就学相談会を行います。また、各通級指導教室においても相談を受け付けています。

金丸小学校 ことばの教室

(久留米市原古賀町28-2) 0942-32-2554

南薫小学校 なんくん教室

(久留米市南薫西町1951-1) 0942-38-6400

善導寺小学校 ぜんどうじ教室

(久留米市善導寺町与田450) 0942-47-1022

安武小学校 やすたけ教室

(久留米市安武町武島776-1) 0942-27-3110

青峰小学校 せいほう教室

(久留米市青峰町2丁目7-1) 0942-43-9102

屏水中学校 へいすい教室

(久留米市山本町耳納1069-1) 0942-47-4610

江南中学校 こうなん教室

(久留米市梅満町637-3) 0942-33-7322

■福岡県には2ヶ所の発達障害者支援センターがあります。

福岡県発達障がい者支援センター「あおぞら」

(八女郡広川町一條1361-2) TEL0942-52-3455

福岡県発達障がい者支援センター「ゆう・もあ」

(田川市大字夏吉4205-7) TEL0947-46-9505

発達障がいのある人の日常生活(行動やコミュニケーション等)についての相談支援や発達支援、就労支援、普及啓発及び研修を行っています。

また、障がいの特性とライフステージにあわせた支援を提供するために、医療、保健、福祉、教育及び労働等の各関係機関と連携を図ります。

上記以外にも各専門医療機関、療育機関でも相談することもできます。

発行 日 / 2017年10月改訂版

発行・問い合わせ先 / 久留米市子ども未来部こども子育てサポートセンター

〒830-8520 久留米市城南町15-3 TEL 0942-30-9731 FAX 0942-30-9718

久留米市教育委員会 学校教育課

〒830-8520 久留米市城南町15-3 TEL 0942-30-9216 FAX 0942-30-9719